



内科・泌尿器科

のはなし

早期発見・早期治療！泌尿器科の腫瘍の話／その102

春は健診とドックの季節！ その①どんな病気をターゲットに？

徐々に日が長くなり、雪解けが近いと感じるきょうこの頃、冬に蓄積した疲れや気候の急激な変化、新たな環境での生活などで、身体の不調が起こりやすい時期と言えます。ちょうど、健康診断が行われる時期と、うまく重なっています。私たちは、生を受けた

は、昔と比較にならないほど環境が整った長寿社会に暮らしていますが、いくら医学が進歩したとは言え、病気が進んだ状態で発見された場合は、治療に難渋し、予後も不良となります。

連載100回を超えたこの機会に、病気の早期発見・早期治療に重要な、健診とドックについて、どんな病気をターゲットに行うのか、どのような年齢層に対して行う健診やドックがあるのか、その内容はどのようなのか、どこで受けられるのか、どのくらいの間隔で受けるべきなのか、基本的なところから、今一度、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

まず始めに、私たちの寿命を左右する敵・病気は何なのか、死因別死亡率を確認してみましょう。厚生労働省のホームページに、令和4（2022）年の最新データが公表されています。

その第1位は、皆さんご存知のとおり、悪性新生物（腫瘍）で、その24・6%を占めており、昭和56年以降、現在まで1位を独走し、かつ一貫して上昇し続けています。第2位は、14・8%を占める心疾患（高血圧症を除く）で、昭和60年に脳血管疾患を抜いてから2位を続けています。その脳血管疾患は、昭和56年に悪性新生物に抜かれましたが、死因の第1位でした。昭和45年をピークとして低下に転じ、現在は第4位、全体の6・8%となっています。

特筆すべきは、現在第3位の、病死ではなく、加齢による自然死ともいえる老衰です。平成13年以降、上昇傾向にあり、平成30年には、脳血管疾患を抜き、現在は死因の11・4%を占めています。第5位以下は、肺炎4・7%、誤嚥性肺炎3・6%、不慮の事故2・8%、腎不全2・0%、アルツハイマー病1・6%となっています。

北彩都病院 泌尿器科
癌診断・治療センター長
徳光 正行
医学博士 日本泌尿器科学会専門
指導医 日本がん治療認定医

北彩都病院 宮下通9
泌尿器科 永山2ノフ
クリニック 046-46-11000